

# 令和7年度第1回渋川市総合教育会議 議事録

## I 開催日時

令和7年7月17日（木）午前10時開会 11時30分閉会

## II 開催場所

渋川市役所本庁舎大会議室

## III 出席者

### 1 構成員

高木市長、下境教育長、都橋教育長職務代理者、原澤教育委員、  
須田教育委員

### 2 市長部局

鴻田総合戦略部長、小野政策戦略課長、  
権澤政策戦略課統括主幹、町田政策戦略課主事

### 3 教育委員会部局

西脇教育部長、西島教育総務課長、金子学校教育課長、  
狩野教育総務課統括主幹

### 4 傍聴者

9名

## IV 会議の概要

### 1 開会

政策戦略課長	定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第1回渋川市総合教育会議を開会いたします。私はこの会議の進行を務めさせていただきます、政策戦略課長の小野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
--------	--

### 2 市長あいさつ

政策戦略課長	それでは、開会にあたりまして高木市長からご挨拶を申し上げます。
高木市長	皆さん、おはようございます。今年度に入って第1回目の渋川市総合教育会議を開催いたしましたところ、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。また、日頃

	<p>から、本市の行政に協力いただいておりますことに感謝申し上げます。</p> <p>今日の議題は、1つが不登校対策と学校における居場所づくりについてであります。不登校の児童生徒は、年々増加傾向にあります。渋川市では、様々な対策をとっておりますが、効果が出るものもありますし、出ないものもあります。いろんな知恵を絞って不登校対策に臨んでいきたいと思っております。</p> <p>2つ目が、渋川市小中学校適正規模適正配置基本方針についてであります。人口減少に対応して、渋川市の学校数も適正にしていかなければなりません。今現在の方針について、進捗状況を報告させていただきますので、ご意見をいただけますと幸いです。渋川市のこどもたちの将来のために、総合教育会議の場を通じて、ご意見を出していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
--	---

### 3 教育長あいさつ

<p>政策戦略 課長</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、下境教育長からごあいさつをお願いいたします。</p>
<p>下境 教育長</p>	<p>皆様おはようございます。まずは、令和7年度の第1回の総合教育会議を開催いただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様にはお忙しい中ご参加をいただき、感謝申し上げます。市長のご挨拶にあったように、未来を支えるこどもたちのためにというのが共通のテーマだと思っておりますが、連日のように、教員による非違行為、または盗撮をはじめとする性的暴行事件が報道されております。本来、安心安全であるべき学校が今、不信感、または不安感を持たれている状況です。ごく一部の教員の不幸事ではありますが、まずはいち早く、学校の安全神話、学校は安全で安心なところだということ復活させたいと思っております。渋川市におきましても、今回の事件等を踏まえまして、昨日緊急の校長会議を開かせていただきました。各校長が同じ目線、同じ温度感で、各学校に持ち帰って、先生方と今回の様々な事件を踏まえて、自分たちの服務規律の確保に取り組んでいただくようお願いをしたところでございます。明るく元気に登校できる、学校</p>

	<p>が楽しい、そういった教育環境を整えることが必要かと思えます。そして、授業や友達との交流を通して、社会性、人間性を育てていく必要があります。そのためには、将来を見据えた学校の適正規模適正配置が必要かと思えます。そして、学校に十分通えていない子どもたちのためにも、誰1人取り残さない、安心して登校できるような居場所づくりが不登校対策と併せて必要かと思っております。委員の皆様におかれましては、20年30年、またその先を見据えた渋川市の学校のあり方についてご意見をいただけるとありがたいと思えます。ぜひ、皆様のご発言が、今後の教育委員会の取組の推進力になりますように、お願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
--	--

#### 4 議題

政策戦略 課長	<p>ありがとうございました。本日出席者に一部変更がございますので、当日配布資料として、修正の出席者名簿を配布させていただきます。</p> <p>本日は、今年度初めての会議でございますので、委員の皆様から修正の名簿の番号順によりまして自己紹介という形でご挨拶をお願いできればと思えます。</p> <p><b>【教育委員あいさつ】</b></p>
政策戦略 課長	<p>続きまして、職員の自己紹介を、市長部局、教育委員会事務局の順に行わせていただきます。総合戦略部長からお願いいたします。</p> <p><b>【市長部局・教育委員会部局・事務局あいさつ】</b></p> <p><b>【配布資料確認】</b></p>
政策戦略 課長	<p>なお、本日の会議につきましては、傍聴を希望される方が9名いらっしゃっております。本会議は公開の会議でございますので、これを認めることにご異議はございませんでしよ</p>

<p>政策戦略 課長</p>	<p>うか。</p> <p><b>【異議なし】</b></p> <p>ありがとうございます。異議なしということですので、傍聴することを認めさせていただきたいと思います。では、傍聴を希望する方にご入室いただきたいと思います。</p>
<p>政策戦略 課長</p>	<p><b>【傍聴者入室】</b></p> <p>次に、次第の 4、議題に移らせていただきます。渋川市総合教育会議設置要綱第 4 条第 1 項の規定により、市長は総合教育会議の議長となるとされておりますので、ここからの進行につきましては、高木市長にお願いします。</p> <p>なお、会議録を作成する都合で、ご発言をされる方につきましては、氏名をおっしゃっていただいてからご発言いただきますようお願い申し上げます。では、市長進行をよろしくお願いします。</p>
<p><b>4 議題（1） 不登校対策と学校における居場所づくりについて</b></p>	
<p>高木市長</p>	<p>それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず議題の 1、不登校対策と学校における居場所づくりについて、資料 NO.1 の説明をお願いします。</p> <p><b>【教育部 説明】</b></p>
<p>高木市長</p>	<p>議題 1 の不登校対策と学校における居場所づくりについて、資料の説明をしていただきました。皆さんから、ご意見等をお伺いできればと思いますが、よろしくお願いいたします。</p>
<p>都橋委員</p>	<p>まず、資料の 12 ページ、不登校対策について、勤務時間が短くなっている理由、あるいは背景を教えてください。</p> <p>それから 2 つ目、資料の 17 ページ、居場所づくりについてですが、校庭で活動する他の子どもたちの様子を見せること</p>

学校教育  
課長

は、とても良い方法だと思います。ですが、そういう子どもたちと関わることができない、しづらい、そういった子どもたちもいると思います。そこで、この方法だけに限らず、そういった子ども達のフォローもしていただけたらありがたいなと思います。

それから、居場所づくりについて、成果が上がっているということですが、より良い方向に持つていくために、実施した内容とその背景を、きちんとデータ化して、精査して、なぜこういう成果が上がったのかということ具体的につまえてやらせてもらえたらありがたいと思いました。

まず初めに不登校対策の12ページのところについて、ウォームアップティーチャーに多くの教員を割けることが望ましいところではありますが、実際には退職された方等に携わっていただいています。その中で、1度リタイアをされた方に勤務をお願いするときに、長時間はなかなか働きづらいという事情もございます。また、担任の先生にとっては、このウォームアップティーチャーがいることによって、非常に助かる部分がありますが、そこに安心感を抱いてしまって、任せきりになってしまったりは困るという意味合いも含めて、フルタイムという時間の設定をしておりません。こういったことから、学校によっては朝の登校を支援をするために、ウォームアップティーチャーの勤務時間を前半に設定する学校もあります。後半に重きを置く考えもあろうかと思いますが、今現状私が把握してる中では、登校時間に重きを置いている学校がほとんどであります。

続きまして17ページ。近くに友達がいると感じられる居場所づくりの中で、子どもたちが活動している様子を見られるという利点がある一方、そういったところに入りづらいお子さんがいるということも、委員のおっしゃるとおりだと思います。そのため、学校内の空き室の状況によっては、パーテーション等を用いて身を隠すような場所をつくっているケースもあります。学校の実情に応じて、子どもたちの環境をどのように整えたらいいのかということを考えながら、取り組んでいる状況です。

<p>下境 教育長</p> <p>高木市長</p>	<p>続きまして 19 ページの成果となる部分について、お話をいただいたとおり、データ化をして、具体的にどのような効果があったのかということを確認してまいります。</p> <p>具体的なご指摘をいただきありがとうございました。ウォームアップティーチャーの 1 日 5 時間勤務、週 3 日というのは、学校からしてみると、もう少ししてほしいという思いは当然あると思います。県費の教職員は常勤ですので、朝から夕方までずっと配置できていて、成果も上がってきているので、市としても、ウォームアップティーチャーの勤務時間を変更できるかどうか、検討の余地はあります。ただし、学校教育課長も言ったように、ウォームアップティーチャーに頼り過ぎてしまっては困るんです。私も現場にいたときに、ウォームアップティーチャーがいない時間については、その学校の職員でどうにか支援体制を構築していこうというのが校長の考えでした。例えば、授業のない先生が関わる体制をつくることで、ウォームアップティーチャーだけに任せない、多くの先生が子どもたちと関わるができる、つまりは全ての先生が担任というような思いで、生徒に関わる体制を整備することが必要になるかと思えます。</p> <p>あと成果について、具体的なところがまだデータで示されておりません。本市は、不登校対策を令和元年度から始めていますが、令和 2 年度から令和 5 年度までずっと増加をしています。これは、ウォームアップ事業の成果がなかったのか、という見方もありますが、私はその積み上げがあったからこそ、令和 5 年度から令和 6 年度については、中学校において、不登校者数の減少が見られたのではないかと考えています。ただ、これもまだ 1 年の結果ですので、この先、令和 7 年度 8 年度もこの傾向が続けば、市として、常勤の不登校対策の教員をもっと増やすべきだということをおっしゃると思っています。都橋委員のデータによって検証してほしいというのは、最もな話だと思いますので、今後取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>ウォームアップティーチャーについては、県の加配による</p>
-------------------------------	---

	<p>マンパワーを活用できるので、渋川市も県教委の方へ強く加配を要求しているんですね。なかなか十分にはいかないんですが、きちんとした体制をつくっていきたいと思っています。</p>
都橋委員	<p>ありがとうございました。不登校対策っていうのは大変な話で、特に先生の人数の問題等いろいろ課題もあろうかと思いますが、ディスカッションを重ねながら対応していくことで、負担感も軽減されるんじゃないかと感じてます。いろいろな実情もあろうかと思いますが、ぜひ、これからの取組の一つとして継続をお願いできればと思います。ありがとうございました。</p>
高木市長	<p>他に何か意見や質問はありますか。</p>
原澤委員	<p>ウォームアップティーチャーについて、予算的なこともあるかと思いますが、週3日間にする理由が、担任が頼り切りになっては困るというのは、大人の論理ではないかと思いました。このウォームアップティーチャーというのは、臨床心理士とか、専門的な知見を持った人ではなくて、単に退職した先生ということでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>退職をした先生が主に入っている状況です。県費負担教職員の方の中には、校長を経験された方もおります。ウォームアップティーチャーについては、校長経験された方や一般教諭という形で退職された方もいらっしゃいます。</p>
原澤委員	<p>校長だったか、一般教諭だったかということではなくて、教育相談的な視点から見られるとか、専門的な技術を勉強したとか、そういう方は入っていないということでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>全員ということではありませんが、教育相談の資格をお持ちの先生であったり、専門的に学ばれた先生方もいらっしゃいます。</p>
原澤委員	<p>学校に勤務しておりましたときに、どんなに情熱を持って</p>

	<p>やっけていても、臨床心理士の方の物の見方というか、心の病の捉え方とか、朝起きられないことに対する受けとめ方ですとか、専門的な知識を持った人の物の見方にはかなわないと思うことが多くありました。私たちの情熱とはまた違う、客観的な視点からも見られる人が、今の時代に必要だと思ふことがたくさんありました。ですから、校長先生の経験があることとは別に、教育心理的な知見でこどもを見ることができたら、とてもいいなと思っています。</p> <p>またこういう会議では、新しいことをやっているということが取り上げられますが、スクールカウンセラーは前から入っていると思います。スクールカウンセラーがどのように機能しているか、スクールカウンセラーとウォームアップティーチャーの関わり方、また学校がそれをどのように機能させているのか、伺いたいと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>スクールカウンセラーにつきましては、月1回程度入っていただいております。悩みを抱えている児童生徒の相談にのっていただけるよう、教育相談の担当等がコーディネートをして、こどもの相談を受けたり、悩みを抱える保護者のご相談を受けたりという体制をとっております。またコーディネートをすることは教育相談主任だけではなく、校長先生、教頭、教務といったケースもございます。中には、教育相談部会で、気になる児童生徒の情報を共有したり、その後の対策について話し合う場にスクールカウンセラーの先生に入っていただきながら情報を共有しているケースもございます。</p>
<p>原澤委員</p>	<p>ありがとうございます。月1回ですと、そのこどもを把握できるレベルにはいかないのだから、先生の報告を聞きながら、そういう場合は一般的にこうした方がいいという助言をする形になりがちかと思ふます。予算もあると思ふますが、スクールカウンセラーの専門性をいかすことが、学校現場では非常に大切だと思ふます。ただ、スクールカウンセラーは、普通の先生を雇用するよりも時給がとても高いとか、そういう事情もあると思ふます。県からあてがわれたスクールカウンセラーでは十分ではない状況で、市費でもう1人雇ったり、時</p>

<p>学校教育 課長</p>	<p>間数を増やしたりして、スクールカウンセラーを更に学校現場に取り入れることが必要だと思いました。</p>
<p>高木市長</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。スクールカウンセラーについては、県費負担という形で入っていただき、活用をしているのが現状です。また、専門性というお話では、不登校に限らず、様々な家庭で悩みを抱えているお子さんまたは保護者等がいますので、スクールソーシャルワーカー等を配置をして、支援を行っているケースもございます。また学校によっては、民生児童委員の皆様の力を借りて、お子さんに対する支援方法を検討しているケースもございます。今後も、専門性の高い方のお力を借り、地域または家庭と連携しながら、不登校対策等については取り組んでいきたいと考えております。</p>
<p>須田委員</p>	<p>他に意見等がありますか。</p> <p>不登校の原因は、特定することはできるのでしょうか。それから、もしその問題が家庭にある場合、どれだけ学校が入っていけるのか、働きかけられるのかということ疑問に思いました。</p> <p>それから、全国的に見た場合の不登校の割合が、群馬県は多いのか少ないのかについてもお聞かせいただきたいと思えます。また地域的な特性があるのかということも併せてお聞かせください。</p>
<p>学校教育 課長</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。不登校の要因については、千差万別であります。特定できるケースもあれば、要因を探りきれないケースもございます。家庭の問題等の複合的な要因が絡み合っていたり、友達との関係、学習に対して問題を抱えているケース、様々なものがございます。そういった中で、その子一人ひとりに合った支援は何かというのを、生徒指導の部会であったり教育相談の部会で、複合的要因が絡まっているものをひもときながら、時にはスクールカウンセラーの先生、民生児童委員、児童相談所、スクールソーシャルワーカー、市のこども支援課にいらっしゃいます家庭児童相談</p>

<p>下境 教育長</p>	<p>員等のお力を借りして、各校で取り組んでおります。</p> <p>また、全国に比べて群馬県は不登校者数が多いのか少ないのかについては、手元に正確な資料をお持ちしておらず明確なお答えはできませんが、全国に比べて、同じかそれ以下であると思います。渋川市においては、ウォームアップティーチャー等の様々な人たちのお力添えにより、中学校では特に不登校対策の効果が出ている状況でございます。</p> <p>不登校については、毎月報告の義務がございます。件数とその状況を報告するものでありまして、国県が示す項目のどこに不登校の要因が当てはまるかということ、担任だけの判断ではなく、各学校の教育相談部会の中で、話し合っています。不登校の要因を全て特定できるわけではありませんが、特定されれば、そこに対して具体的な支援を行うことが必要だと思います。また、専門の方を入れたケース会議も行って、児童相談所だったり、心理士さんを入れて行う場合もありますので、不登校の要因がどこにあるのかをできるだけ明らかにしていけると、支援のきっかけになるのではないかと考えています。以上です。</p>
<p>高木市長</p>	<p>渋川市は、ウォームアップティーチャー等、様々な財政支援を各分野に配分して取り組んでおります。ただ、地方自治体だけではなかなか財源確保ができない状況です。こういった特種事情に対する加配が壊れてしまうという現象が起こっていますので、国に予算配分をしていただかなければならないと思います。根本は、国庫負担を国が改悪して3分の1にしたところからこの問題は続いていますので、渋川市は毎年毎年、国に要望していますが、引き続き要求していきたいと思っています。</p> <p>それでは不登校対策については以上にしたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
<p><b>4 議題（2） 渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針について</b></p>	
<p>高木市長</p>	<p>引き続き2番目、渋川市立小中学校適正規模適正配置基本方針についてを議題といたします。説明をお願いします。</p>

	<p><b>【教育部 説明】</b></p> <p>それぞれ委員さんから、質問等がありましたらお願いします。</p>
都橋委員	<p>まず、資料の 15 ページ。行財政について、財政面で大変かと思いますが、ことどもたちの教育のことですので、そこに重点を置いて取り組んでもらえたらありがたいなと思っています。</p> <p>それからもう 1 つ、渋川市は合併によって、市町村が広がりました。とても広範囲にある学校をどういうふうに統合していくか、こども目線を最重点で取り組んでいくことをお願いしたいと思います。これはお願い、要望になりますが、よろしくお願いします。</p>
教育総務課長	<p>まず 15 ページの行財政について、学校施設は老朽化が進んでいるところがほとんどとなっております。そういった施設の改修、また学校の適正配置をすることによって、例えば通学にスクールバスが必要になる等があるかと思っています。そういったところも十分検討してまいりたいと思います。</p> <p>また、適正配置によって、学校への通学距離が長くなるお子さんも出てくるかと思っています。そういったことについても、今年度検討する中で、こども目線というところを忘れずに、より良い方法で検討できればと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
高木市長	<p>他に意見や質問はありますか。</p>
原澤委員	<p>この段階で具体的なことは思いつきませんが、小規模校ですと、多様な人格と出会えないということを言われますが、教育委員になって、何度か入学式とか卒業式に出させていただく機会があり、小さな学校の卒業式に行ったときに、私の小規模校に対する考え方を見直さないといけないと思うことがあります。規模が小さいがゆえに育まれているものがあって、温かさとか、地域の繋がりがとても深いと思いまし</p>

	<p>た。ですので、例えば赤城の南と北とか、小野上と伊香保はよく交流をしていると思いますけど、風土性が全く違うと思いますし、その文化とか風土とか地域のあり方を、どう納得しながらつなげていくかということが、適正配置をする上で、難しいことだと思いました。小さい学校の卒業式にいったときに、例えられない感動があり、大規模校ではなし得ないこと、その地域でしか成し得ないことと、どう折り合いをつけていくかが難しいと思いました。</p> <p>それから、これも教育委員としていろんな学校に行かせていただく中で、最近大雨が降ると、北橘中の体育館は大丈夫かなと思うことがあります。すごく老朽化していて、危険な所も増えていると思います。何かことがあってからでは遅いので、生徒の命に関わる場所は最優先に考えてほしいと思います。</p>
教育総務課長	<p>まず1点目、小規模校は確かにアットホームな雰囲気もありますし、地域の方も協力的なところが大変多いかと思っております。ただ大規模校・小規模校いずれも、メリット・デメリットがあるかと思しますので、十分に協議しながら、適正配置を進めていきたいと思っております。</p> <p>また2点目、北橘中のお話もございましたが、北橘中に限らず、雨漏りをしているところがございます。もちろん修繕で直せるところは直していますが、根本的に直せないというか、どこが原因なのか分からないようなところもあるのが現状です。かなりのお金をかけて屋根を徹底的に直さないといけないところもありますので、早急に措置をしていきたいと思っております。また、子どもたちの命に危険がないように、必要なことについては、早急に対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
高木市長	他に意見や質問はありますか。
須田委員	住環境とか地域性など、それぞれの学校が独自で抱える問題があると思います。統廃合等により、取りこぼしがないように、細心の注意を払っていただくよう希望いたします。ま

<p>教育総務 課長</p>	<p>た、統合して効率化を図るためには、事務作業等の更なるデジタル化が不可欠になってくると思います。ただ、人の教育は心に寄り添うアナログな仕事なので、その両輪で進めていただけるように希望いたします。よろしくお願いいたします。</p>
	<p>取りこぼしのないようということで、地域課題はいろいろなものがあるかと思いますが、そういったことも配慮しながら、基本方針を策定をしていきたいと思っております。今後は、もっと具体的な計画づくりになっていきますので、そういった場面では、更に地域の方々のご意見等を取り入れながら、子どもたちにとってより良い教育環境を整備していきたいと思っております。また、デジタル化についても、取り組めるところは考慮しながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>下境 教育長</p>	<p>委員の方から、本当に良いご指摘、ご意見いただきました。今の段階でどこまで発言をするか非常に難しいと思います。当然、基本方針が決まりましたら、来年度以降、基本計画の中で、適正規模適正配置とは何かというところに議論が進むと思います。その時に、先ほどお話しにあった、その地域の歴史や伝統、またその地域性や風土については、議論の的になるかと思っていますので、本当に貴重な意見だったと思います。県内でも、適正規模適正配置がかなり進んでおります。大きく分けると、旧町村は全く関係なく、大胆に新しい学校を作っていこうという市がございます。またある市では、旧町村の特徴をいかして学校を残そうというところもありますが、今の状況で残すのは難しいので、例えば、小中一貫校や中等教育学校等、小規模の特性をいかせるような、渋川で言えば小規模特認校のような形で学校を残そうとしている市もございます。これから適正規模適正配置を進めていく上で、館林市なども、その辺をどのように進めていくかを思案しているところかと思っていますので、市内・県内の状況については、教育長会議等で情報交換をしながら進めていきたいと思っています。原澤委員さんに卒業式の場面をお話しいただきましたが、</p>

大きな学校ですと、卒業証書をもらっている当事者のすぐ隣に次の生徒が待っているというような、言葉悪いですけどベルトコンベアのような、時間を短縮して式をするという光景があります。それはそれでメリットはありますが、小規模校の場合は証書をもらった後に1人ずつ、将来こんなふうに頑張っていきます、中学に行ったらこんな部活に入ってこんなふうに頑張りたいみたいな意見表明をする学校もあつたりします。それぞれの学校で、これまでの伝統を引き継いでいただいているところもありますので、そういったことを議論できるような、適正規模適正配置の会議であつてほしいと思っています。当然、学校教育の指導的な立場と、教育総務課のやっている施設設備の管理という立場があります。ただ、学校再編で不安を感じているのは、当事者のこどもたちなんですね。こどもたちがどういう不安を感じているかということをおろそかにして、大人の目線だけで再編統合が進んでしまうことは、大変危険だと思っています。私は三原田小学校で刀川小学校のこどもを受入れる当事者の校長であつたので、こどもたちが不安に思っていることは何か、再編に伴って何を求めているのかということをしごく大事にして、保護者や教員と話し合ってきた経験がありますので、そういったことをいかしていきたいと考えています。以上です。

高木市長

渋川市は市町村合併して、学校数が多く、他の市町村と比べて生徒児童数に差があると思います。私も学校の入学式や卒業式に行きますが、少人数でアットホームな感じがいいなと思う反面、伊香保小学校では、入学児童数が1人で、周りを大人何十人が取り囲んでいる状況もあります。いずれにしましても、適正規模適正配置において、この適正というのは何かということは非常に難しいと思います。地域の特色によっていろんな物差しがあると思いますが、その物差しをつくるのは、教育現場だけではできないですし、行財政の論理だけでも十分ではないと思います。この物差しを、これから多くの市民の皆さんを巻き込んで議論をしていかなければいけないと思っています。まだ基本方針も固まっていませんので、より広いより深い議論が必要だと思っています。この問題はまだ

	途中ですが、また機会がありましたら、議論をしていただければと思います。
<b>その他</b>	
高木市長	今日予定しました議題については以上で終わりますが、その他何かありましたらお願いします。
下境 教育長	<p>本日は大変ありがとうございました。今学校現場が抱えている大きな2つのテーマ、課題であると認識しております。なぜ学校に行くのかと問われたときに、学校が楽しいからと、全てのこどもたちに言ってほしいんですね。学校に行けないこどもたちも、何かきっかけをつくって、学校との関わりを持ってほしいと思います。ただ、今は不登校の解決策が学校に登校することだけではないという方向性が示されています。それもそのとおりだと思います。ただ、教育の目的というのは、一番の根本は人格の形成であります。つまり、人としての成長というのが、学校では求められていると思います。一人では、または家庭だけでは育たないものが、学校という集団の中では育っていきます。そういう意味では、学校に来られないこどもたちもそういう経験を積んで、将来に向かって育って行ってほしいという思いがあります。先ほど市長からありましたように、適正規模適正配置の先には学校の再編統合という言葉が必ず出てきます。我々とするとその前段で、適正規模とは何か、適正に配置するとはどういうことをしっかりと議論していく必要があると、改めて市長の言葉から痛感しました。ぜひ多くの方々に、様々な立場で様々な角度からご意見をいただいて、この2つの大きな課題に取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。</p>
高木市長	それでは以上で本日の総合教育会議の議題については終了いたします。以降は事務局からお願いします。

## 6 閉会

政策戦略 課長	それでは、以上をもちまして令和7年度第1回渋川市総合教育会議を閉会させていただきます。長時間にわたりまして、
------------	--

	熱心にご審議をいただきまして誠にありがとうございました。
--	------------------------------